

さまざまなサイズのプレート

必要なサイズ・精度の金属プレートを短納期で提供

株式会社 越智製作所

事業内容と沿革

ものづくりの原点を支える仕事

同社はもともと大手電機メーカーに納める金属部品を取り扱う会社に勤めていた先代社長の越智信盛が実兄と昭和59年に大阪府門真市で立ち上げた会社。「体が弱かった母のために父は思い切って独立した」と越智一禎社長は当時を振り返る。当初は2名で小さな金属加工の下請け工場として営んでいたが大手金属メーカーからも受注するなどの実績が認められ、徐々に経営も軌道に乗り始めた。昭和61年に現在の門真市四宮に本社を移転した頃には社員も12名程度まで増え、さらに平成26年以降奈良県生駒市・福岡県北九州市・愛知県大府市に製造拠点を拡大し、大阪府門真市の2拠点とあわせて全国に5つの製造拠点をもつ社員100名の会社にまで成長した。生産拠点の1つである生駒工場では高精度な製品を取り扱うため、加工精度の向上が特に必要となる。そこで現地での地盤の調査も行った。

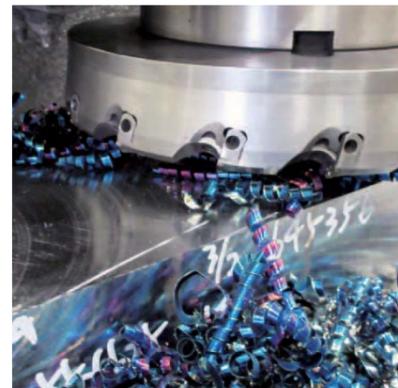
同社の主力は金型、機械装置や装置部品、自動車部品、切削工具など産業のあらゆる基盤、部品作りのための“母材”となるプレートだ。普通鋼・特殊鋼・ステンレス鋼を含むさまざまな金属を扱うエキスパートであり、「あらゆる産業の第1歩目となる材料を提供することに誇りをもっている。ものづくりの原点を支える仕事だ」と越智社長は自社の存在に自信を見せる。

強み

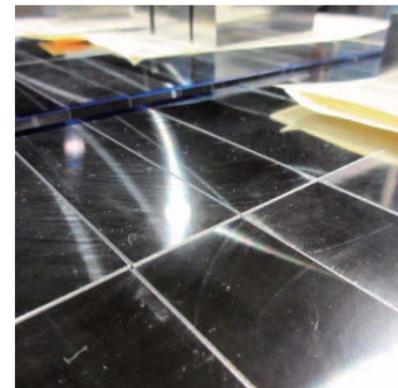
プレートのプロフェッショナル

同社の強みはまず、顧客の必要とする材料を即座に提供できる社内体制にある。まずフライス加工により低コスト短納期を実現して顧客の要望に応えたとともに、品質・精度を重視する顧客にはロータリー加工・サーフェス加工といった工程を追加して製造した高精度の製品を提供する。これにより顧客はプレートの粗加工から解放され、材料の切り出しや細かい削りなど重要な工程に速やかに進むことができる。オプションサービスとして簡単なマシニング加工やラッピング加工を含んだ鏡面仕上げまで行っており、このような鏡面仕上げとなると慎重な作業が求められるため微細なキズが付かないよう加工工程での工夫も怠らない。社内検査では妥協を許さず、熟練の技術者が仕上げ状態に目を光らせる。「顧客に提供する製品に一切の妥協を許さない」。これこそが同社の誇りである。

同社では端材活用によるコストダウンにも努めている。他社と共同開発したX線分析装置で鋼種の特定をすることにより異材（鋼種違い）による流出防止を図り、鋼種を特定したうえで再利用する。加工サイズも10mm×10mmから1,200mm×2,500mmと、小物から大物まで、顧客の要望に合わせた製品を提供する体制ができている。



フライス加工



高い精度でカットされたプレート



生駒工場外観



測定し品質を確保

- 企画・提案
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン

短納期、多品種少量生産に対応
お客様のご要望に応えます！



代表取締役
かずよし
越智一禎さん

金型、機械装置や装置部品、自動車部品、切削工具などに使われるプレート（普通鋼・特殊鋼・ステンレス鋼など金属素材）を設計図面で指示された寸法・精度・仕上げの仕様に合わせて迅速かつ正確に加工しております。特注品が多く、付加価値の高い製品を製造しております。

主な事業内容

6面フライス加工による金属プレートの製造販売

主な取引先（納入先）

大同DMソリューション（株）、ウメトク（株）、白銅（株）、ボーラー・ウッドホルム（株）他

【住 所】〒571-0017 大阪府門真市四宮4-3-8
【TEL】072-882-5523
【FAX】072-882-5532
【創 業】昭和58年8月【設 立】昭和59年3月
【資本金】3,000万円 【従業員】100名

カドマイスターの取り組み

削りのプロ集団を目指す

普通鋼から特殊鋼、さらにはステンレス鋼といった難削材まで同社は「削りのプロ」という言葉をモットーに現場のレベルアップを日々目指している。そこで、数年前に生産統括部という品質管理・工程管理・設備保全と開発を行う専門部署を立ち上げた。同部門の責任者には大手鋼材メーカー出身者を迎え入れ、大手が持つ品質管理のノウハウを同社に、徹底的に根付かせることを目指す。「生産管理はソフトだけではだめ。現場を肌で知っているという経験値に勝るものはない」と越智社長は現場の頑張りに外部の風を融合させることの意図を話す。「生産管理のレベルがその会社のレベルであるといっても過言ではない」とその重要性を社員にも説く。

また治具・刃具の使い方もノウハウの塊だ。製品に少しでも高い付加価値をつけるため、外部の知見を積極的に投入する。新人教育・社内研修会も積極的に行い、社員の資格取得支援にも手を抜かない。

今後の展開

産業構造の変化に対応

電気自動車・シェアリング文化の台頭など、越智社長は今後の大きな産業構造の転換に対応する手段を模索している。産業での素材も古くは木材その後、産業革命により鉄へとシフトし、今後鉄に替わる素材の台頭すら視野に入れる。「こんな素材削れる？」と問われたとき、「とにかくやってみよう」という姿勢で、今後は、セラミックスや高珪ステンレス鋼、さらには金属だけではなく樹脂なども加工の対象として取り扱っていく予定だ。

生産拠点についても今後増やす必要があると考え、大手鉄鋼メーカーを下支えする企業としてその存在感を見せていく。「いつの日か、大手金属メーカーに海外展開を持ちかけられたときに、迷わず、きちんとお手伝いできるよう準備しておく」と次のステップにも準備万端。最終的には「地産地消」を目指し、必要とされるものを作っていく国内外の生産体制を構築していく考えだ。

<http://ochi-ss.co.jp/>

